寫眞週報

内閣情報部編輯

六月廿九日・第廿號・十セン



内蒙防共線

昭和十三年二月十二日　第三種郵便物認可　昭和十三年六月廿九日發行（毎週一回水曜日發行）第廿號



内蒙古に、太陽の子（日本人）は、沙漠の闇をひらく光をもたらした。猛然と立上るジンギスカンの末裔――内蒙古に朝は呼ぶ。希望と建設の朝は呼ぶ。

內蒙防共線

撮影　大宅壯一

陸軍省新聞班



⇧蒙古の初夏は時々寒波が襲ひ、朝に吹雪が荒れ狂ふかと思ふと晝には灼熱の太陽が燒きつける。——夜來の雪を毛肌に凍りつかせて、寒さにおののく羊の群。



⇩待ちこがれた炎暑の晝がきた。家畜は、燃え上る大地を蹴つて、草原に出てゆく。馬、羊、山羊、緬羊が唯一の財產であり、生產手段である蒙古人も、ほつと一息。



⇦內蒙古人の大半はラマ敎徒だ。來世の幸福を祈る爲に、ラマ廟の周圍に天幕を張り、一週間乃至十日間の日を限つて、廟を百八回廻る。——敎典を背にお百度を踏む善男、善女。



"包"の採光窓。

昔から……と云つても百年や二百年もの昔ではない……「滿蒙」と云ふ名稱は隨分人々の口の端に上つてゐた。さて、その「蒙」の方は一般にあまり大きな關心が持たれてゐなかつたが、滿洲國の建設で「滿」の方は片附いたので今度は「蒙」の方に人々の耳目は集つた。そこへ一昨年末の綏東事件で內蒙の自治問題が德王の名と共にハッキリと浮び出して來た。一方「ソ聯」の外蒙經營は愈々露骨になつて、今や名實共に外蒙はその保護領となつてしまつた。內蒙の危機は迫つた。この時突然起つた蘆溝橋畔事件を合圖に蒙古民族が奮然として起ち上つたのである。

自治政府の成立・我が暴支膺懲の聖戰は疾風の勢を以て進展し察哈爾方面に於ては日蒙軍が十月十四日に綏遠、十九日に包頭を占領した。そして此の進擊により綏遠縣城に在つて漢蒙兩民族を壓迫してゐた支那軍閥は完全に一掃され、綏遠省の政治、經濟、交通、治安等の萬端は民衆の選出結成した治安維持會の手によつて行はれることゝなり、十月二十三日には市民大會を開催、樂土建設、赤化驅除の標語を高らかに叫んで獨立を宣言し、年號を成吉思汗紀元七百三十二年と改め、旗章を藍地左上角に紅、黃、白縱列のものを採用することに決議した。十月二十八日には綏遠で開かれた蒙古大會に於て蒙漢兩民族三百萬民衆代表が蒙古聯盟自治政府の成立を宣言し政府主席に雲王、副主席に德王を夫々推戴、樂土建設の爲め意義深き第一歩を踏み出したのである。

この蒙古聯盟自治政府と、さきに南京政府の羈絆を脫して輝しい新生の途に就いた察南、晉北兩自治政府とは緊密な統制、協調により蒙疆聯合委員會なるものを張家口で設立し德王が其委員長に推された。

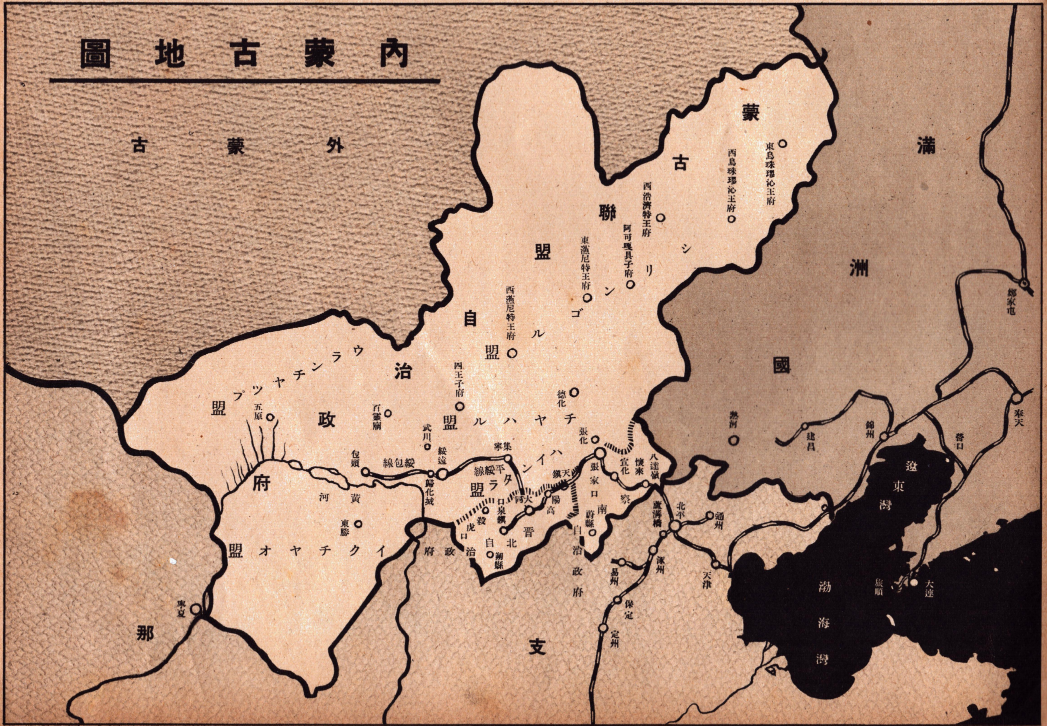
組織・此の委員會の組織を簡單に表示すると次の通りである。

- 蒙疆聯合委員會
  - 蒙古聯盟自治政府
    - 察哈爾盟
    - 錫林郭勒盟
    - 烏蘭察布盟
    - 巴彥達伊盟
    - 克昭拉盟
  - 察南自治政府
  - 晉北自治政府
  - 金融委員會
  - 產業委員會
  - 交通委員會

即ち以前の行政區劃、察哈爾省、綏遠省は消滅して、萬里の長城の外城と內城で包まれた元の察哈爾省の南部の地域は察南、山西省北部の地域は晉北となり、爾餘の地域は五つの盟に分れて區劃され蒙古聯盟自治政府となつたのである。玆で簡單に盟と旗の說明をする。元來蒙古には大小色々の遊牧集團があつて、その力の强いものは他を征服して益々强大になつて來たのである。所が清朝が蒙古を歸順せ

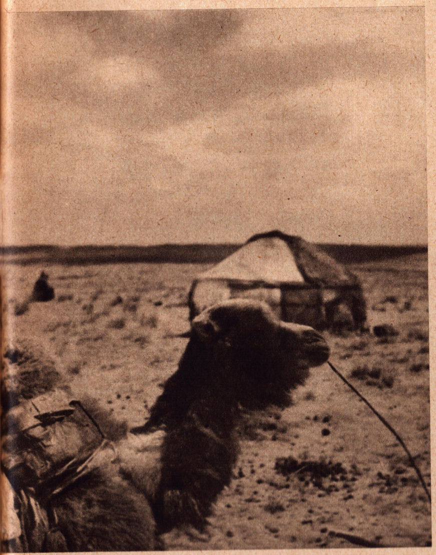


⇦ 原始的な遊牧の民にも、近代文化は少しづつ入りこんでゆく。静かな高原の夜、支那製のポータブルに、日本產のレコードを軋ませて興ずる、近代人夫婦。





⇨ 十三世紀の初頭、オノン河谷にモンゴル族の部落から立つて、朔北一帶を統一した成吉思汗は、今なほ內蒙古人尊崇の的となつて居り何處の包でも、その肖像を必ず佛壇の傍に飾つてゐる。



寂然とたゝずむラクダ、ぽつねんと構へた包——見はるかす限りたゞ茫々五百餘萬キロの高原。然し、この所謂塞外朔北の天地にも御稜威洽く新しき"亞細亞の黎明"は明けそめる。⇩



⇨ 容貌に、言語に民謠に、日本との濃い血のつながりを感じさせる內蒙古人。——この少年の顏など日本人と見分けがつかない。焚いてゐるのは乾燥した牛糞だが、畜類は草だけしか食はないのでその糞は、硬く淸く、便利な日常の燃料になる。

しめてからは其益々強大になる事を恐れて、遊牧集團の大なるものは分割し、小なるものはそのまゝとし、一定地域に固着せしめ、これを旗と稱し、更に一定の地域內の旗を以て盟（チゴルガン）を組織せしめた。之れは指定せられた地域內の王公が三年に一回宛一定の場所に集會して、過去の報告をなし、將來の方針を協議する制度で、その盟會を開く場所の名に因んで盟の名稱とした。即ち錫林郭勒盟は十旗の王公が錫林郭勒河畔に於て盟會を開いたので其名稱が出來たのである。

産業・・蒙古民族本來の產業は概ね遊牧と狩獵に限られ、家畜が蒙古人の生活資料の唯一の源泉であると共に、唯一の財產であつたのである。そしてその家畜の主なるものは緬羊、山羊、馬、牛、駱駝であつて、就中緬羊と馬はその代表的なものである。蒙古在來種の緬羊は長尾種中脂肪種に屬するもので、蒙古人は之を肉用、搾乳、皮毛用としてゐるが、その品質は概して粗惡である。各地の頭數は明ではないが錫林郭勒盟だけでも約百萬頭と推定せられ他の家畜に比し斷然頭角を抽んでてゐる。此の羊毛は日本の國策的見地から見て極めて重要なので、最近各方面で種羊の改良增殖が計畫實施されて居る。遠からず面目を一新することであらう。

馬は蒙古人の唯一の交通機關であるから各戶に飼育されてゐる外、遊牧地帶に於ては多數の放牧馬が見られる。優良馬の產地として有名な錫林郭勒盟北部の烏珠穆沁地方では一群數百頭に達する放牧馬群を見るのも珍しくはない。

牛は搾乳及食用に供する外、物資運搬に使役せられ、駱駝は二瘤種に屬し、主として物資運搬に使役する。

尚鑛物資源も相當豐富で埋藏確實と見られるものは、石炭、鐵鑛、金、曹達等である。

次に商業に就てであるが、蒙古人は元來家畜によつて衣食住に關する總ての慾望を充足して來たが、漸次異種族と接觸するに及び之れ等との間に交易が生じ、それと同時に蒙古人の自給自足經濟が漸次破綻して交換經濟に移つたのである。然し今日に於ても蒙古人の交易は異種族の間にのみ行はれ、蒙古人相互間に於ては殆んど行はれてゐない。從つて蒙古の商業は常に對外商業で、而も其れは入るを主とした受動的な商業であると言へるのである。

蒙古人の需要商品は大體茶、砂糖、煙草、嗅煙草、酒、菓子、衣服、裝身具、佛具、馬具、什器等で內蒙方面では北京、天津、上海方面の製品が壓倒的多數を占め、世界に誇る良品廉價の日本製品は蒙古に於ては極めて少量である。之は從來蒙古貿易が全く支那商人に獨占せられ、蒙古人の嗜好に適する商品が支那本部から搬入された爲であらう。此の點わが國今後の研究と活動の餘地が甚大と云はねばならぬ。

日蒙會話

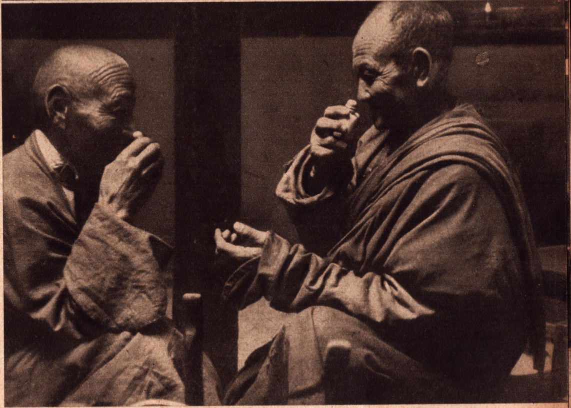
モンゴル オロス・ボル ヤマル ホオル イデェヂィ バイナ：

蒙古人は何んな御飯を食べて居りますか。

モンゴル オロス オランヒイ ボル ミハア スヴ テェリィグッテェンイ イデェヂィ バイナ：

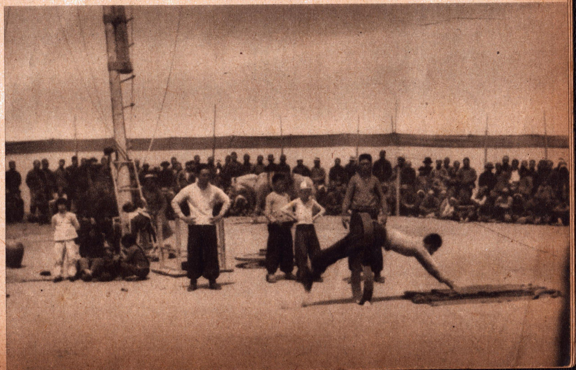
蒙古人は大概肉、乳等を食べて居ります。

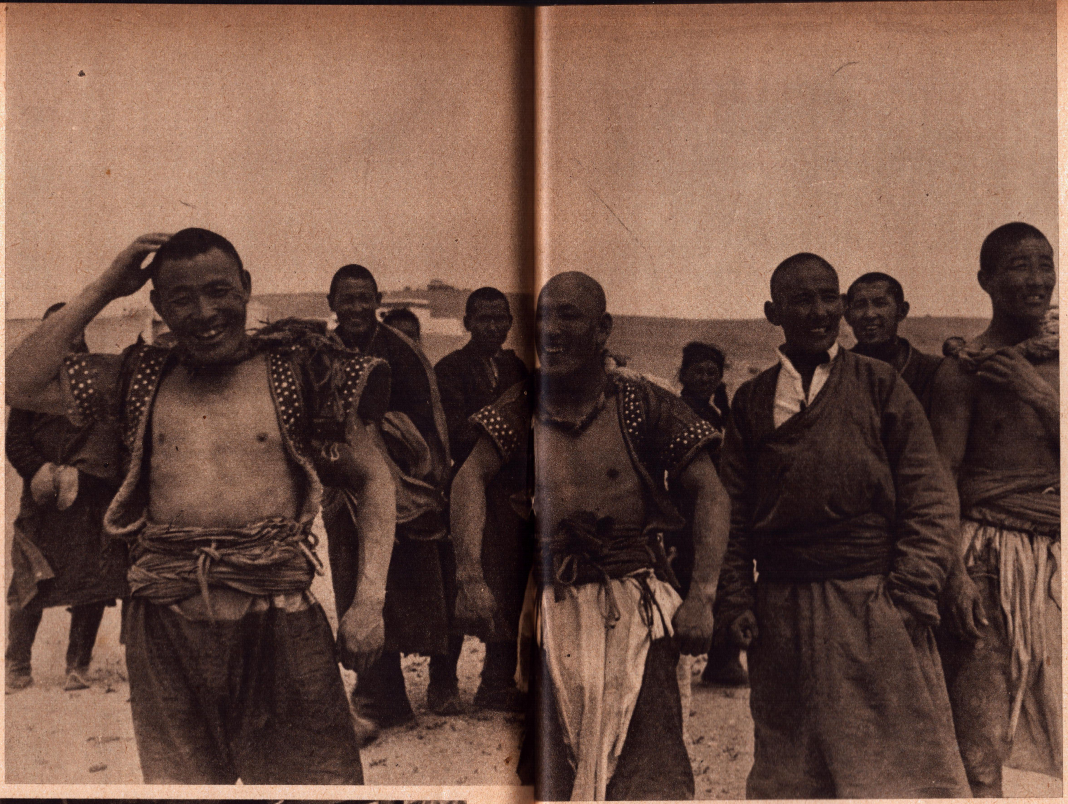




お互ひに持つてゐる嗅ぎ煙草を交換してかぎ合ふのが、内蒙古人の挨拶だ。やあ、と煙草をとり出した御兩人。(上)

くんくん嗅いで、〃コンニチワ〃





相撲と踊りと狩獵のほか、これといふたのしみのない内蒙をさすらふ漢人曲藝團は、何處でも大入滿員——あざやかな輕業に見とれる蒙古人達。



蒙古相撲は、柔道着のやうな相撲着をつけかたい土の上で叩きつけ、叩きつけられ、血まみれになつて勝負を爭ふ。傷だらけになつて、一息いれた力士達。(上)

やつ！　と組合つた選手。(中)

一勝負終つて、無數の傷に、日本人から貰つた藥を、もの珍し氣につけてみる。(下)





ラマ教の佛像。



内蒙古では、僧と民との二階級に分れてゐて、内蒙男子の半數は、幼時からラマ廟に入り、僧侶としての修業を積む。廟前に集つた、大僧、中僧、小僧。

内蒙紀行

支那人は昔から國家觀念が乏しく、尨大な領土と四億の人口を擁しながら、ごく最近まで近代的な國家を形成するに至らず、列強爭覇の舞臺を提供してゐるにすぎなかつたのであるが、一人々々の支那人は驚嘆すべき生活力をもつてゐる。

現在蒙疆政府に屬してゐるところで、凡そ耕して人間の生活しうる土地は、あますところなく漢人の手に歸してゐる。これまでの世界地圖を見ると、內蒙は支那領のやうになつてゐるが、蒙古はかつて清朝と同盟を結んだだけで、決して支那に隷屬したわけではない。ところが清朝の陰險巧妙な懷柔策のために、蒙古人の鬪爭力の失はれた隙に乘じて、漢人は商人として、農民として徐々に蒙地に侵入し、蒙古人を次第に不毛の奧地へ壓迫していゝところは全部、いつのまにか事實上占領してしまつた。そしてその後へ國民政府が役人や軍隊をもつてきて統治するといふ風にして今日に至つたのである。この點政府の保護奬勵のもとに送られる日本の滿洲移民の場合と著しく違つてゐる。

だから張家口から包頭まで、名は蒙疆地帶でも、見わたす限りよく耕やされた畑と支那風の家屋があるだけで蒙古らしい景色は見られない。蒙古人は土地に鋤鍬を入れることを嫌ひ、もつぱら放牧を業とし、丸い木製の骨組に氈子（羊毛のフエルト）を被せた包の中に住んでゐる。今ではかうした純蒙古風の生活を見るには、鐵道沿線から離れてかなり奧へ入らなければならない。

張家口からトラックで北へ進むと、二時間ばかりで張北に達する。こゝはこんどの事變で大激戰のあつたところで、皇軍と蒙古兵が協力して數倍の大敵に包圍されてゐた味方を救つたが、そのとき救はれた皇軍勇士たちはその蒙古兵と相擁して嬉し泣きに泣いたといふ話が傳へられてゐる。またこゝには事變前から張北軍官學校があつて、各地から選拔された蒙古青年を日本式に訓練してゐたが、かれらは今や新興蒙古の中心となつて活躍してゐる。事變後も新入生が入つて猛訓練が行はれてゐる。

それから約二百キロばかり行くと德化につく。この邊*

*としては珍らしい肥沃な土地で、かつて宋哲元が漢人移民を大量に入れて、トラクターを買ひこんで大農經營を行はうとしたこともあるといふ。事變前は、新興蒙古の指導者德王の據點として大いに榮え、數百人の日本人も入りこんでゐたが、事變直後支那兵の掠奪に遭ひ、今は見る影もなくさびれてゐる。

こゝから山岳地帶に入るが、それを越えると一望千里の大草原で、もう畑もなければ支那家屋もなく、純然たる蒙古である。いたるところ牛、馬、羊、山羊の群が見られると共に、兎、狐、貂、栗鼠、鶴、鴨等の野生の動物が、トラックの前後左右にしばしば出沒する。特に羚羊は數千、數萬の大群をなし、それが移動する姿は、文字通り丘が動いて行くやうで、素晴らしい壯觀である。

西蘇尼特の德王府は、王府のほかに壯麗なるラマ廟、兵舍、蒙古軍官學校及び附屬幼年學校がある。敎官は滿洲の興安軍官學校を出た蒙古の青年將校で、遙かゴビの沙漠を經て外蒙につづく自然の大練兵場で、日本式敎練を行つてゐる。それにいつ匪賊や支那敗殘兵や外蒙兵が襲擊してくるかもしれぬといふので、この邊一帶は非常に緊張して、王府を中心に數十キロにわたり、每晚非常警戒を行つてゐる。

人口は極めて稀薄で、五、六キロ行つて三つ四つの包を見る程度である。生活程度は低いが、かれらは至つて無慾である。家畜は草を食つてひとりでに成長する。それを賣つてメリケン粉、布、茶、煙草、裝飾品等を買ひこむのであるが、取引はすべて支那人の手で行はれ、蒙古語では商人は「嘘つき」を意味し、ひどく輕蔑されてゐる。

容貌や言語の上からいつても、かれらは支那人に比して遙かに日本人に近い。氣質も單純素朴であり、勇猛果敢である。一緒に生活してみると、實に善良そのものである。

かれらの對日感情は至つてよく、どこの包を訪れても「日本人」といひさへすれば、直ちに招じ入れて正座にすゑ、乳でつくつた酒や菓子を出して歡待してくれる。それが決して打算に基づいてゐないので、全く氣持がいゝが、衣服や食器類を洗ふといふことを知らないので、不潔なのには閉口する。それにかれらの間における花柳病の蔓延は戰慄すべき現象である。

しかし今や蒙古も、日本の與へる刺戟と援助と指導のもとに、次第に目覺めつつある。日、蘇、支をめぐつて近き將來に迫りつつある新しい物凄いアジアの嵐は、恐らくこの邊を中心に捲き起つてくるのではないかと思ふ。

（大宅壯一）



⇦ 厚和（綏遠）の徐州陷落祝賀會で、祝辭演說をする德王。
新しき蒙疆の英雄德王が、一度立つや、各盟、各旗は、その風を慕つて集り、蒙古聯盟自治政府は結成され、活潑な民族運動を起して大蒙古建設に邁進してゐる。



西蘇尼特に在る德王府。新時代の黎明はここからきざし、新獨立旗ひるがへる處、五盟四十九旗の蒙古民族は、東に西に蹶起、つひに蒙古聯盟自治政府の誕生をみるにいたつた。

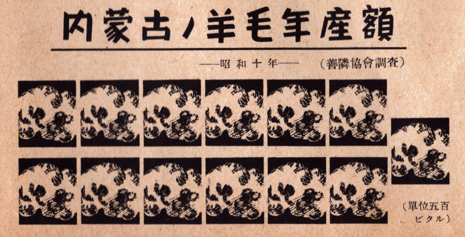


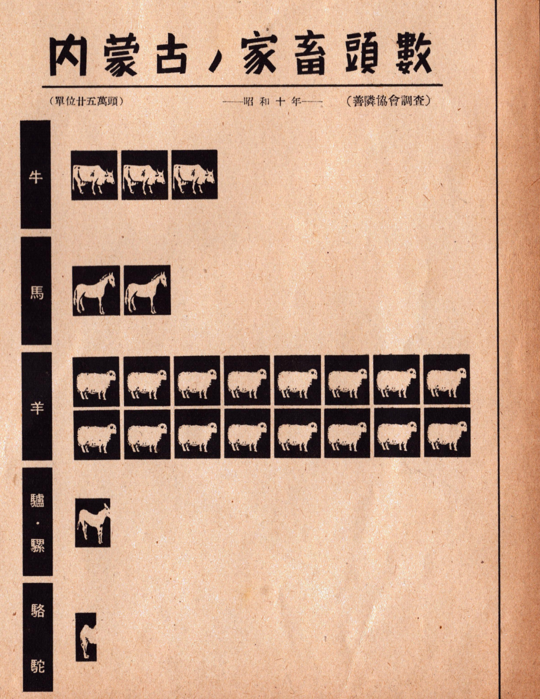
牛車に乘つて"包"から"包"へ敎義を說いて步くラマ僧。



大蒙古建設の未來を擔ふ若き公爺（王子）德王の長男德嘎爾蘇隆二十二歲。北京で敎育をうけた智識人で、今指導國日本の研究、日本語の習得に、革新の熱情を傾けてゐる。この九月には來朝する豫定である。









⇦ 昨年十月皇軍の協力を得て、多年蒙漢兩民族を壓迫してゐた支那軍閥の掃蕩に蹶起、綏遠、包頭をまたたく間に占領し、蒙古來！ と支那軍を畏怖させた、勇猛蒙古軍の颯爽たる英姿。



⇨ "起ち上る蒙古"の指導者となる蒙古軍官學校生徒は、太陽の子(ナル・フン)の軍に學んで、新興蒙古の中堅となるべく、炎熱に鍛へてゐる。
支那軍閥を一掃、いま赤色外蒙に備へる蒙古軍。ジンギスカン生誕の地に、飜へるは新しき盟邦の旗、とゞろくは、萬民歡呼の聲 ⇩



⇦ 精悍、全亞細亞を震駭した往時の軍國蒙古は再建された。德王府には蒙古軍官學校附屬幼年學校が開設され、號令も日本語で、日本式軍事教練をうけてゐる。——猛訓練中の内蒙古漢民族青年。



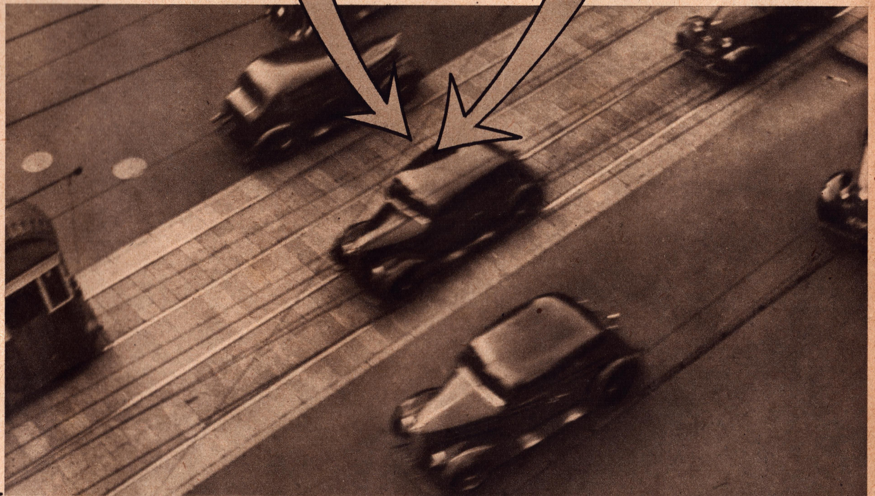
七月一日から

ガソリンにアルコールが混入されます

專賣局







鐵、石炭と並んで、日本に最も重要かつ缺くことの出來ない資源は今石油である。「ガソリンの一滴は血の一滴」と叫ぶ燃料國策は、まづ積極的にガソリンの供給増加を圖ると同時に、合理的消費節約の問題を研究しなければならない。

合理的消費節約として一番妥當と考へられることは何であるか――それはわが國ガソリン全需要量の九四%を占めてゐる自動車用ガソリンに農産物を利用して出來るアルコールを何パーセントか混入し、出來うる限りガソリンの消費を少なく止めることである。

歐洲大戰でガソリンの重要性を身に泌みて悟つた諸外國では、早くからこの混入制度が採用され、ドイツ、フランス、イギリス、イタリー、チエツコスロヴアキア等二十數ヶ國は之を強制、あるひは奬勵してゐる。

そして、七月一日からは日本の自動車もいよ〳〵アルコールの混入されたガソリンで走ることになる！

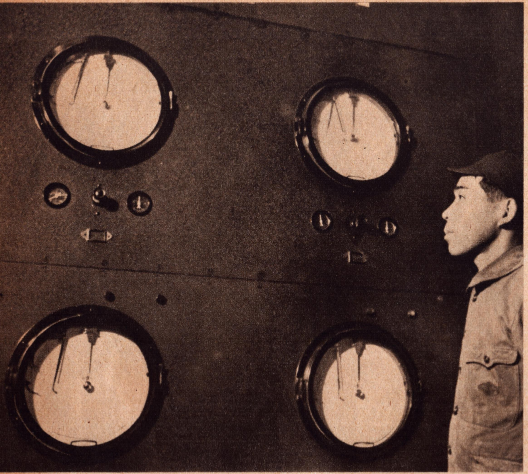
芋からアルコール、そして自動車が走るまで――

アルコールの製造原料は内地では主として甘藷、馬鈴薯である。年に何千萬貫といふ芋を政府（專賣局）が買ひあげるので、これは同時に農村經濟をうるほすといふことにもなる。今年出來上つた全國五ヶ所の專賣局直營酒精工場ではこの芋をアミロ法といふ蒸餾精製法によつて從來のものより安全かつ經濟的に大量生産をするのである。

この他に、砂糖きびの廢蜜から採れる臺灣や南洋のアルコールもドラム鑵につめられて移入され各地の製油會社に送られる。

其處で、ポンプ仕掛で長いパイプの間を通つてアルコールとガソリンは混ぜ合はされる。そして、現在ではアルコール供給力の關係でガソリン消費量の四分ノ一に五パーセントのアルコールを混入するに止るが、將來は消費總數量に二〇パーセントの混入割合を目標としてゐる。

普通のガソリンよりずつと良質な液體燃料として出來上つたこのアルコール混入ガソリンは、タンクローリー等で一般の油槽所やガソリンスタンドに配給され國策の切符ガソリン券でトラック、バス、タクシーのタンクに入れられる譯である。實驗によると、このアルコール混入ガソリンは、エンジンのパワー、カーボン壽命等に關しては從來のガソリンの場合と全然同様であるが、ノツキングは反つて少くなり熱効率は向上するので、運轉手諸君も決して心配はいらない。寧ろ歡迎してよいであらう。



⇧ 正確に五%の割合でアルコールは混入されてゐるかどうか、その比率を自動的に示すプロポーションメーター。

撮影 内閣情報部



⇧ アルコールはいよ〳〵ガソリンに混入され貯藏タンク一ぱいに入つてゐる。さあこれからガソリンスタンドに配給だ。

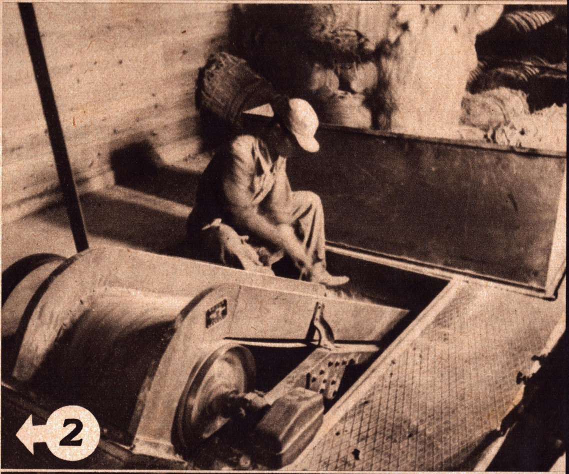


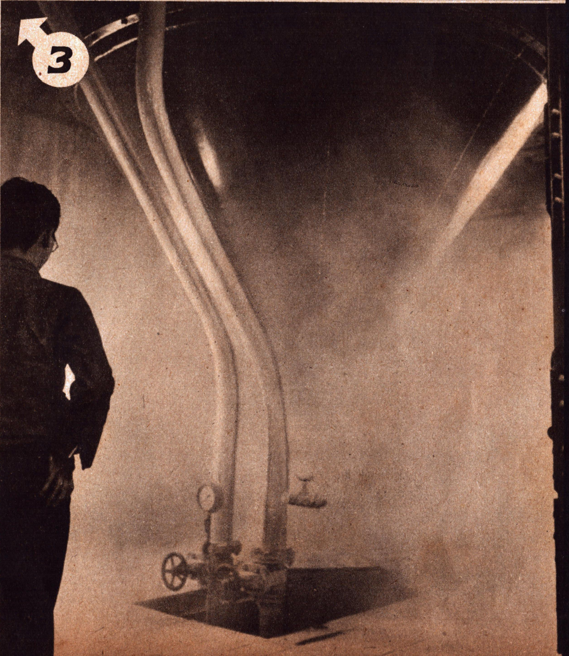
⇦ 臺灣からはる〴〵二千石ものアルコールを積んで海祥丸は東京芝浦に入港した。アルコールのドラム鑵はたゞちに荷揚げ、輸送會社の手で各石油製油所に配送される。

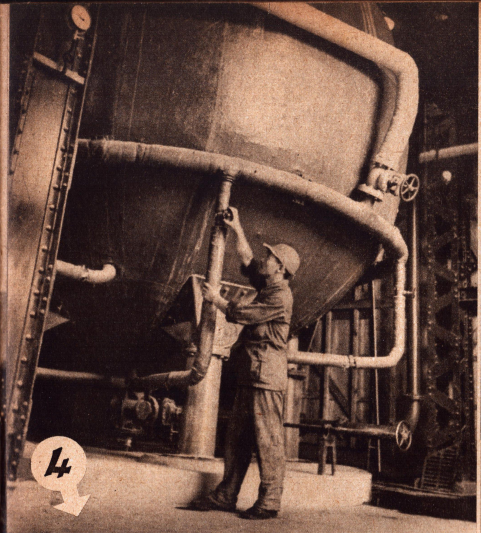
無水アルコール製造行程圖

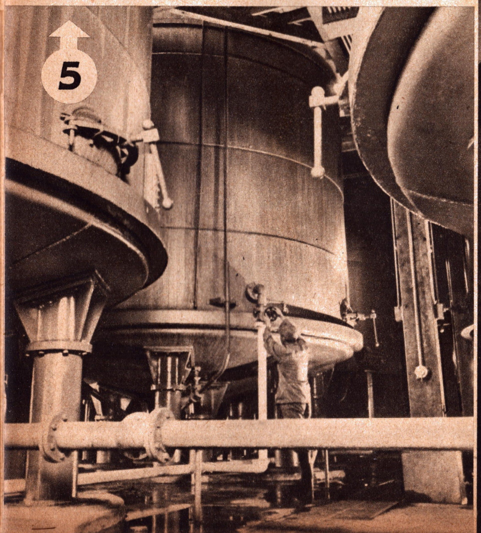
大藏省・專賣局・千葉酒精工場



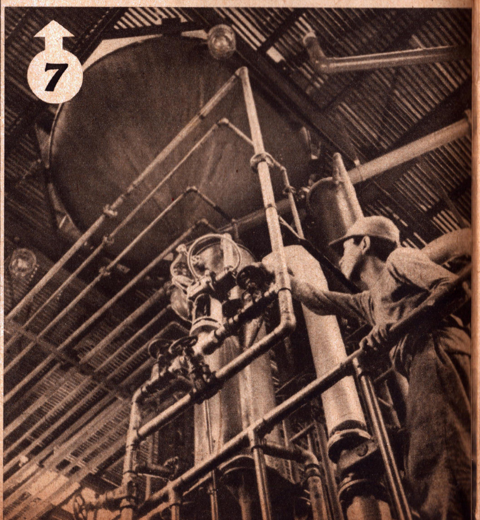




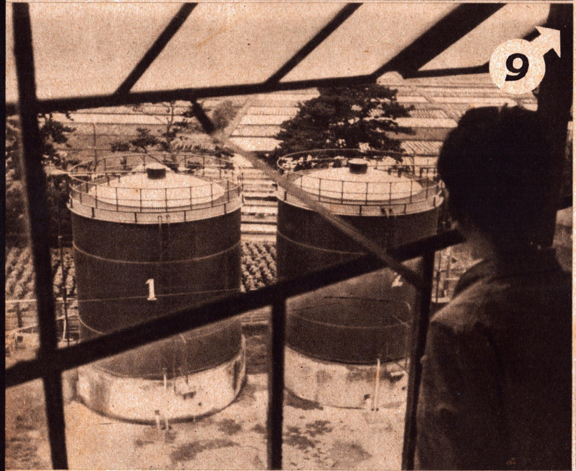














原料處理

- ① 原料倉庫（干甘藷） ←
- ② 原料解包 ← 電磁分離（↔ 鐵屑） ← 荒目粉碎 ←
- ③ 篩 ← 細目粉碎 ← 原料粉溜（篩 → 微粉 → 原料粉溜）

蒸煮醱酵

- ④ 蒸煮機（二八〇石容量）二五〇石仕込
  - ↑ 溫水槽（一〇〇石容量）餘熱利用
  - ↑ 助成料
  - ↑ 鹽酸（PH調節）
- ⑤ 醱酵槽（五六〇石容量）五〇〇石仕込
  - ↑ 酒精酵母
  - ↑ アミロ菌
  - ↑ 無菌壓搾空氣
- ⑥

蒸餾

- 粕取機 ← 醪地下槽 ← 熱交換器 ←
- ⑦ 醪蒸餾塔（廢液 → 熱交換器；廢液 → 廢液濾過池 → 粕（飼料）（肥料））
- ⑧ 精餾塔（→ フーゼル油（藥品））
- 脫水塔（↑ 脫水劑ベンゾール；排出溫水）

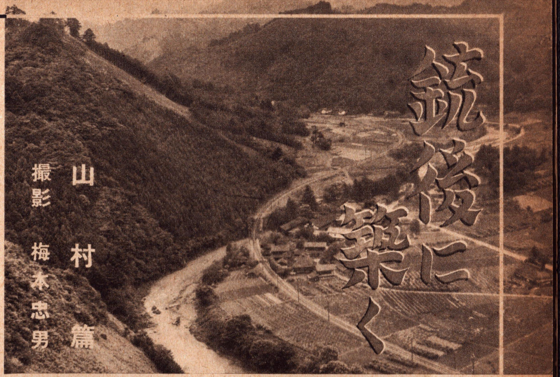
製品搬出

- 製品無水アルコール查定槽（容量一〇〇石）（↑ 變性劑槽（五〇石容量））
- ⑨ 製品大貯槽（容量一、〇〇〇石）
- ⑩ 配給準備

銃後に築く

山村篇

撮影　梅本忠男



わが國の山村はこれまで幾多の經濟的試練に遭つてゐる。しかし試練に負けてはならない。今こそ奮起すべき時である。ただ繭が安い、材木の價が下つた、人手が足りぬと徒らに嘆いてゐるべきではない。何處に窮乏の原因があるか。何處に改善の餘地があらうかを檢討して、更生計畫を根本的に立て直さうではないか。

こゝに窮乏のどん底から見事更生しえた東吾野村が、今日の更生の域に達するまでに何を計畫し、何を爲たかをしらべてみやうではないか。

東吾野村

埼玉縣入間郡東吾野村は外秩父溪谷を流れる高麗川に沿つて點々と散在する山村である。戸數四百三十六戸、人口二千五百五十人、總面積約一千町歩の內、山林七百六十町、水田二町八反、畑地百七十町、畑地の五割が桑園となつてゐる。

耕地らしい耕地もなく、從つて村民はこれまで山林の收益と養蠶を主業に、秩父絹織物を副業に、細々と生活をつゞけて來たのである。が世界大戰後襲來した蠶業界の恐慌は假借なくこの僻村にも猛威を振ひ、その上、關東大震災後の林業界の大混亂は、木材の價格を最高價の五分の一に引落し、繭糸加工の家內機業は織物工業の發展に伴つて休業しなければならない悲運に立ち至り、昭和五年ころにはこの山村は全く窮乏のどん底に陷つたのであつた。

更生への道

これではいけない、何とかしなければならない、と立ち上つたのが現村長淺見保太郎氏、小學校長岡田要作氏、當時の村長加藤唯三郎氏、その他の先覺者たちであつた。

何が貧困の基であるか、何が產業不振の原因であるか。それはかうした僻村で、林業にも、養蠶業にも、又副業にも、各戸別々小さな經濟單位で、而も昔からの舊式な經營法を固執してゐるからである。これが原因である。農山村の根本的更生はどうしても村全體の組織化による計畫經濟を實行しなければ絕對に望むことは出來ない。これが先覺者たちの結論であつた。かくて昭和五年「產業振興會」を設置、村內の衆智をあつめるために各種產業に經驗深い百余名を委員とし、林業、養蠶、農事畜產、副業の各部に委員會を設けて產業振興の計畫を立てるとともに、村長以下の先覺者は極力村民に計畫經濟の必要を力說して廻つたのであつた。

經濟更生五ケ年計畫

昭和七年十一月、縣から經濟更生指定村に選ばれるや、新たに「經濟更生委員會」を組織、いよいよ本格的に更生計畫に乘り出すことになり、まづ村全體の產業別基本調査が二ヶ月間にわたつて綿密に行はれ、その調査に基いて、遠大な經濟更生五ケ年計畫が樹立された。

その實行機關としては四十名の委員から成る經濟更生委員會が中樞機關となり、村農會、產業組合と緊密な聯絡をとるとともに、その下に教養、農業、林業、養蠶、畜產、副業、金融、購買販賣、生活改善の九部を置き、各部會は計畫實行の直接指導、督勵にあたり、また各部落には更生組合を組織して、實行單位の各戸を細胞として個人即組合の實行機關とした。

かくて昭和八年四月二十一日、東吾野小學校に全村民を集め計畫內容を精細に說明した上、神前に於て實行の宣誓式を行ひ即日全村民一致協力大計畫の實行に移つたのであつた。

更生計畫の實行とその成果

五ケ年計畫は今年の四月に至つて完了した。果してその實績はどうであつたか。昭和七年度の全村の現金收入二十萬六千余圓は、昭和十二年度には三十五萬九千余圓に增加した。その重な內譯をあげれば、

	昭和七年度	昭和十二年度
林業	五〇、二〇〇	八七、七〇〇
養蠶	三九、〇〇〇	六七、五〇〇
畜產	三、六〇〇	二〇、〇〇〇
副業	八、三〇〇	二三、七〇〇
勞賃	四四、四〇〇	九二、一〇〇
負債	三八二、〇〇〇	一五六、〇〇〇
預・貯金	三二八、〇〇〇	四四五、六〇〇

かうした見事な結果を擧げることが出來た五ケ年計畫にはどんな內容が盛られ、如何に實行されたか。その主だつたものを取あげてみやう。

林業——產業殊に林業の發達にはまづ道路が必要である。その意味から牛馬道、林道、木馬道延長約二十キロを新設、この完成によつて從來木材の產額十萬圓に對し三萬圓を要した運搬費が二萬圓に減じた。又山林經營の改善にはまづ苗圃の改良からはじめて、從來閑却されてゐた間伐、枝打ちを勵行したゝめ昭和七年度までの山林一町歩の一ヶ年平均成長率一〇〇圓が、今日では一五〇圓に上つてゐる。

養蠶——まづ蠶種を改良し、從來戸々別々であつた經營を統制しなければ養蠶の實績は上らない。そこで全村蠶種の共同購入を行つて、品質を統一し、これを共同催靑所（蠶種を孵化させる所）で同時に掃立てゝ各戸に配布し、四人の指導者が最も進歩した養蠶方法を指導する。そして出來た繭は村內二ヶ所の收繭所に集めて共同出荷をする。

畜產——主として養豚であるが、從來の品種が不良であつたのにかんがみて、農林省及び縣の種畜場から種豚を購入して良種の繁殖をはかつた結果、その收益は計畫樹立以前の約六倍といふ驚異的發展をみるやうになつた。

副業——家內機業の全滅によつて殆んど全く職を失つた女子に副業を興へることは更生計畫の重要な部門であつた。昭和十年、更生委員苦心研究の結果、陸軍被服廠から兎毛皮の斷屑の拂下げをうけ、これを加工する講習會を二ヶ月間にわたつて開き、防寒具製造の新副業を興したのであつた。この新副業は見事成功して、昭和十一年度には製品八千七百餘圓を販賣し、その加工賃金約三千圓に上るやうになつた。

所が、昨年十月、被服廠からこれまでの拂下げ屑皮で、軍用防寒帽の部分品製造を命ぜられたので、產業報國はこのときと全村婦女子を總動員、數ヶ所に共同作業場を新設して晝夜兼行國民精神總動員の趣旨を實地に體得しつゝ奉公したのであつた。

副業にはこの他、醬油の共同釀造場を建設、村產出する小麥を利用して一ヶ年百石の醬油を釀造、各家庭に配給してをり、又養蠶の副業としての經糸の紡糸、林業の副業として割箸の製造があり、村民に遊んでゐる手は完全になくなつた。

共同購入——水田がわづか二町八反しかないこの村では、如何にして飯米を安く購入するかといふことが大問題である。それには產業組合を通じて共同購入するのが最善の方法であるから、まづ村內二十の更生組合と、產業組合とが密接な連絡の下に、毎月三回各戸の米及び飼料肥料等の需用數量を取まとめて各實行組合に通告する。すると、產業組合からは更生組合の物資配給所に送りとゞける。そしてこれらの更生組合で集金して納入する。

教養——更生計畫の遂行にはまづ排他的な、個人主義的な從來の思想を淸算して、隣保共助、共存共榮の精神によらなければ絕對に村の組織化は行はれない。この意味から教養部長である小學校長が中心となり、更生計畫の成功を疑ふ一部の反對論の說得、又次代の村を背負ふべき、小學生、男女靑年の教養に涙ぐましい努力が拂はれたのであつた。

第二次五ケ年計畫

一村總動員の努力は實を結んだ。第一次更生五ヶ年計畫は、かくて豫期以上の成績をあげて完了し、今年四月、第一次計畫の成績を精細に檢討して、更に第二次五ヶ年計畫を樹立、いよいよ更生の實をあげるべく第二段の實行に入り、全村民勇躍各各その業にいそしんでゐる。





共同收繭所——統一した蠶種を全村同時に掃立てるから繭の出來上るのも全村同時だ。

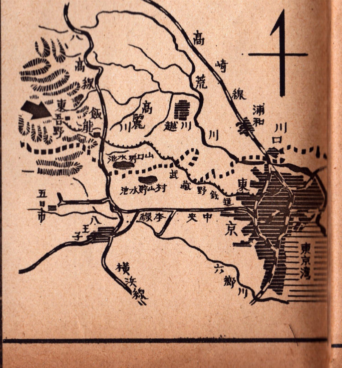
各家庭で取れた繭をお內儀さんや、學童がリヤカーに積んだり、背負つたりして、こゝへ運んで來ると即金で繭代が支拂はれ、山と集まつた繭は次から次へトラックで共同出荷される。



⇧ 木馬道——深い山から重い木材を運び出すには非常な勞力が要る。木馬道はこの勞力を輕減するために勾配を平均して、鐵道の枕木式に枕木を敷設した木材運搬用の特種道路で、木馬（橇）はすべりの良い枕木の上を、積んだ木材の重みで容易に運ばれて行く。



⇩ 造林の手入れ——山林の收益はその手入れに正比例する。小學校の兒童も學校所有の山に入つて、先生の指導の下に草刈の實地訓練。「苗木は人間でいへば、お前たちのやうな小學生だ。大事に育てゝすくすく伸びさせやうぢやないか」（下）





村長の訓話――
兎毛加工作業の開始は毎朝八時、その始業に先立つて、必らず村長の訓話がある。「お早うございます、今朝は貯蓄報國のお話をいたしませう」
男女靑年の敎養は一村總動員の更生計畫遂行に最も力を致すべき重要な仕事だ。一村總動員の精神はそのまゝ國民精神總動員に擴大されやう。



記帳督勵――
家庭經濟の立て直しはまづ家計簿からと、村では各戸に家計簿を配布して出納を明記させ、督勵員が月一回各戸を訪問して記帳を督勵する。
出納簿などつけたことのなかつたお内儀さんも今はすつかりなれもしたし、その効果がしみ〲と感じられる。「今月はだいぶ殘りましたね」督勵員の顏もお内儀さんの笑ひも明るい。



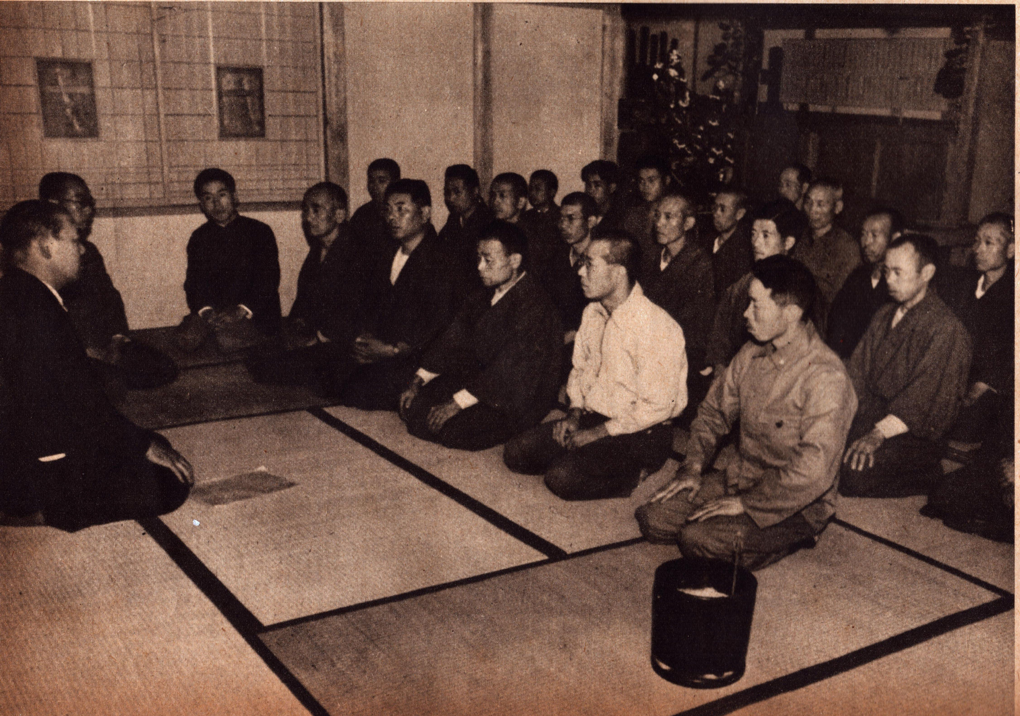
物資配給所――
この間、組合にたのんでおいた米が着いた。砂糖も、ゴム靴も屆いたよ。
「背負ひこ」をかついだお内儀さんが、娘が、山から降りて來る。



藥草の採取――
村の山にはどくだみ、げんのしようと等の藥草が澤山生へてゐる。これを採つて蔭干にし、産業組合に收めるのは小學生の仕事だ。
「はい、みつちやんは三十五錢、としちやんは、ほう一貫三百匁もあつたな、はい六十一錢」
支拂は凡て現金、このお金でこの村の小學生は學用品を買ひ貯金もする。



兎毛加工場――
新らしい副業をえた乙女たちに、今また更生の仕事がそのまゝ銃後の御奉公となつた。
これが戰地に屆いて勇士の體を嚴寒から防ぐのだと思へば、縫ひあげて行く一針にも感激がこもる。



常會――
部落の常會は更生計畫實行の本據だ。月一回、午後八時開會、定刻には各戸の代表者洩れなく出席、村長、部長、技術員も顏を揃へる。租稅購買費、更生貯金の集金を終れば組合長が議長となつて、各自が持ちよつた更生計畫實行上の諸問題を討議し合ひ、又技術員その他の指導に聽き入る。



海の彼方



⇧**英帝スコツトランドへ**

英國ジョーヂ六世陛下には皇后陛下御同伴にてスコツトランド・グラスゴーで開催される英帝國博覽會開會式に御臨席マイクロフオンを通じ博覽會開會の辭を述べられた。



⇧**ディルクゼン博士駐英大使に**

駐日獨逸大使としてわが國滯在中日獨兩國關係の親善に多大の貢獻をして歸國したハーバート・ディルクゼン博士は今回リツベントロツプ氏現外相の後任として駐英大使に新任され、英國皇帝に親任狀を捧呈した。



⇦**ヒトラー總統を迎へる伯林市民**

世界の注視を集めて、ムツソリーニ首相と會談、獨伊樞軸を更に强化したヒトラー總統はブランデンブルグ門通りを埋め盡す市民の大歡呼に迎へられて五月十日伯林に歸着した。

（同盟通信社）

寫眞募集規定

本誌は『寫眞報國』の一助にもと考へ、出來る限り紙面を開放し諸君のカメラを動員、優秀な技術を待つてゐる。題材は內外啓發、國策の宣傳に關するものならば何でもよい。例へば街にも田園にも、或は工場、家庭、學校など到る所に漲る銃後の誓ひ、國民精神總動員風景、或は季節と世相の面白い組合せなどはどうでせう。一枚の寫眞でも數枚ひと組の組寫眞でもよく締切期日は決定せず、サイズはキヤビネ判以上、掲載の分には薄謝又は記念品を贈呈し版權は當部に屬するものとす。應募作品は一切返却せず。

內閣情報部

寫眞週報（禁轉載）

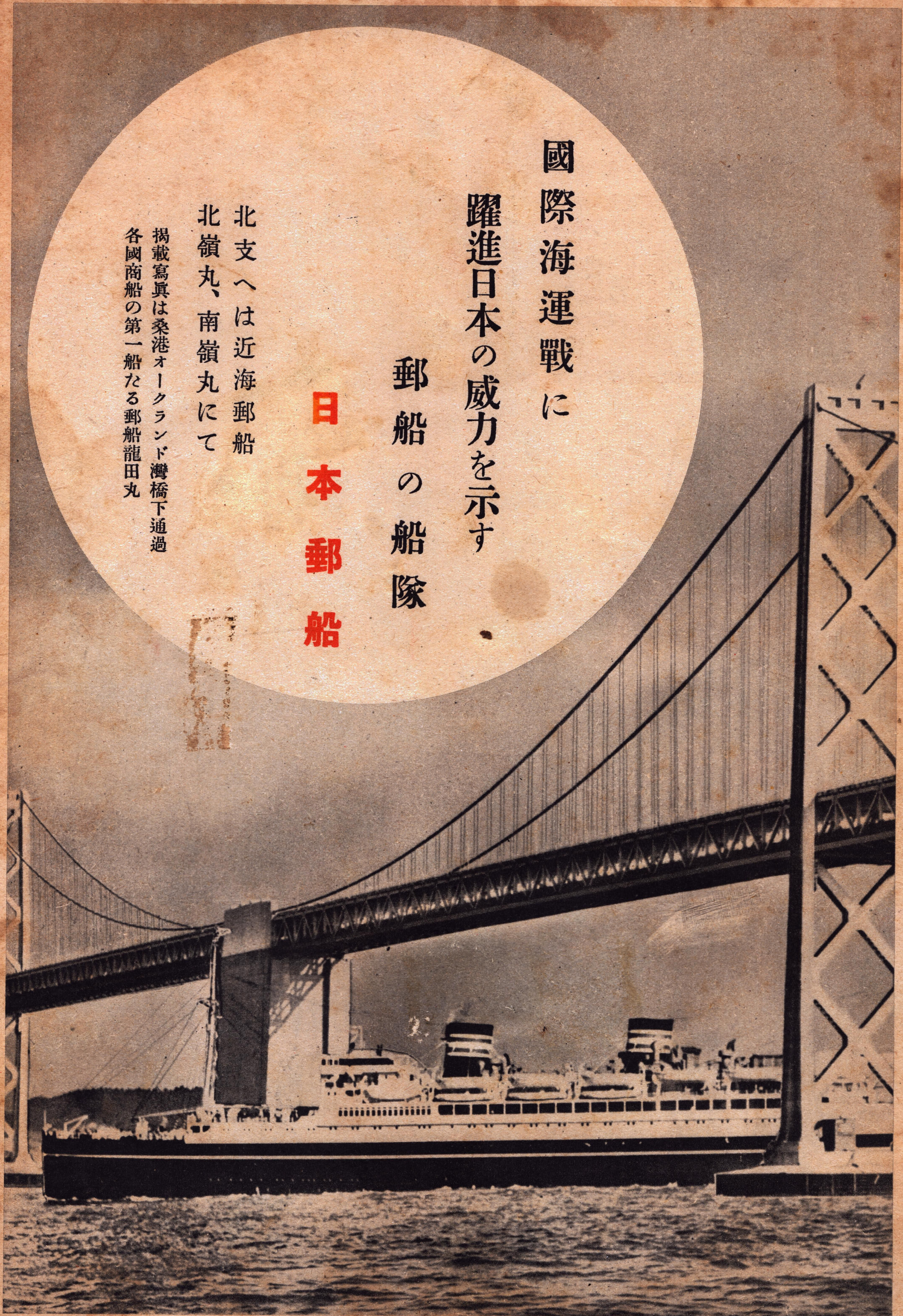
昭和十三年六月二十九日印刷發行

編輯發行者　內閣情報部　東京市麴町區永田町內閣總理大臣官舍內
印刷所　大日本印刷株式會社
印刷者　東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二番地

定價
一部　十錢
一ケ年（前金）四圓八十錢　—送料不要—（外國郵便に依る地域は八圓九十錢）
一ケ年分未滿配送御希望の方は一部十錢の割合を以て前金を添へ御申込み下さい

申込所
寫眞週報配送部　東京市麴町區內幸町二ノ二〇　電話銀座四六一一五番　振替口座東京三五八〇〇番
全國各地官報販賣所
東都書籍株式會社
最寄書店・驛賣店
各地新聞販賣所
寫眞材料店

寫眞週報
昭和十三年二月十二日第三種郵便物認可　昭和十三年六月廿九日發行（每週一回水曜日發行）第廿號



掲載寫眞は桑港オークランド灣橋下通過
各國商船の第一船たる郵船龍田丸

（本書の大さは國定規格A4・『週報』倍判）